

平和主義イビルジョーの食事情

王道を行くヘタレウス

モンスターハンター好きな少年（以下俺）が
とある理由で亡くなった。

目覚めれば白い空間

目の前には白い髪に赤メッシュ、真紅の瞳の少女
そう

祖龍（神）である

—そんな神の口から出た言葉は—

「君を転生させませーす♪」

俺「へ？」

で、

イビルジョーとなった少年の食事情の物語。

目次

俺、何かに転生する	1
出身地、決定する。	11
やっぱりジョーでした。	21
やっぱり転生モンスターなんだねー	33
孤島に来る凶	45
なんか不穏じゃない!?	53
凶雷って迷惑だねホント	61
俺、自然の恐ろしさを知る	69
竜と龍の差	77
俺の進化が半端ない	85
新たなる脅威	91

キャラ整理

開拓そして新エリア獲得へ

王の味

我身の成長

1 俺、何かに転生する

俺、何かに転生する

読者の皆様、初めまして

王道を行くヘタレウスと申します

このサイトでモンハン小説を読んでいます

イビルジョーって基本敵キャラだなー

って感想が原点の小説です

今作はそんなイビルジョー視点の物語となっております

ぜひお楽しみください

語彙力が無かったり亀更新だったりしますが

周一は投稿するので

ゆったり待っていただければ幸いです

では、どうぞ！

俺はふつうの男だ。なに不自由ない生活を送る少年だ。

でも

退屈だ。とにかく退屈だ。

楽しみと言えばモンスターハンターくらい。

モンスターハンターは俺の光だった

2時間前新展開が発表され、飛んで喜ぶくらいには。

ということまでコンビニ。

今夜の食料補給だ。

キ
イ
イ
イ
イ
イ

楽しみすぎるぜモンハ

— ?

てか眩しっ！

ん？なにここ？えーと白。白。うん。

浮いて、はない。なんじゃこりゃ

『おーい？』

「!?」

『あはっ♪そんなびっくりしないですよー』

「どなた？」

何この人。

真っ白なショートヘアに赤メツシユ

そして深く透き通った真紅の瞳。白いワンピース

どなたとは言ったが予想ついてきたわ

『その想像あつてるとおもうよ』

読まれた!?

『えーっと、自己紹介いいかな？』

お、おう

『単刀直入に言って私はミラルーツ、神です』

やっぱな。モンハンやってりゃ分かる。

「んで神様？ここなに？俺どうなったん？」

『おっ、冷静だねー』

説明しろや。

『はいはい』

『ここは命の間って所で』

ほう。

『君は一度死んだんだよ』

は？

なんで？

確かめコンビニ行って帰って——

えー。ないってー。そういうやつー？

『Yes』

「まあ、わかった。でどうなるんお——」

『君を転生させませーす♪』

「へ？」

マジで？小説じゃ有るまいし

『何に転生するかはランダムだけどモンハン界に転生ね♪』
ちよっと待てそんな急に――

ん。キツイ。狭い。

えーと状況を整理しよう。

死んで、神に会って、で？

転生とか言ってたな

じゃあ――

卵のなか!?

何に転生したかもわからんやん！

割ろう！早く!!

俺の中にいるナニカが訴えてくる。

じゃあーとりま頭突きだな。定番の。

ほい！ほい！ほい！ほい！ほい！ほい！

いや硬くね!?

ヒビすらはいんねえ。

いや諦めんな俺！モンハンの世界が外側にあるんだよ！

おらおらおらおらおらおらおらおらおらおらおらおら

おらあ!!

ピシッ

お!?

そい！そい！そい！そい！そい！

ピキピキパシィッ!!

眩しっ！

よっしゃ！心の中でガッツポーズする。

あと一押しやな。

おおおおおおおらあつつつつつ！……！！……！！

ふうー。出れた。

まず言えること。

めっちゃ前傾姿勢！

手がちっさい！

とすると…獣竜種か。いいね。

飛竜も良かったけど飛ぶまでかかりそうだし

獣竜種はなんか落ち着く。うん。

あとは、尻尾はよく見えないけど重いかな。

ドボル？ディノ？

わからん。

自分が何か知りたい。

水辺行くか。てかここ何処だ？

洞窟内だな。真っ暗ではないからそんな深くなさそー。

あー。あそこから出れそうだな。

自分と同じくらいの高さに穴がある。

光もそこから入って来てるから、外側だろうな。

あー、人間感覚でやるとダメだな。

手が使い物にならない。

じゃあ脚！ 獣竜種の強靱な脚ならいける！

ていや。

やっぱりいけたわ。やりい俺。

さて、散策といきますか。

1000文字辛っ！

前半と後半で口調が変わってますが、

テンションの変化です。

これからは後半テンションでいきます。

9 俺、何かに転生する

さらに明るくなるかも知れないです。

出身地、決定する。

イビルくんのイビルジョーらしさを

出して見ました！

難しい。

では、どうぞ！

と言うわけで、巢(?)からの第一歩を踏み出した。

えらく広いな、ここ。

俺は生れたてだからか？そもそも俺ってどんくらいの大きさなん？

まあいいや。

やっぱ洞窟内ってだけあって暗いな。

天井に穴があってそこからの光が頼りだな。

マジで何処だ？ワールドはやってなかったから、新大陸は勘弁だよ？
お。なんか生えてる。

石？にしちやキレイだな。

あー、鉱石ですか。

青い鉱石、マカライト鉱石ってとこかな。

——腹へったな。

無意識に思った。モンスターの本能ってやつ？

じゃあなんか食べ物探すか。

転生もんの小説とかだと鉱石食ってるやついるよね。

いけるか？

いやいやいや。モンハン界に転生して？初食事が鉱石？

ないわー。

何となく肉が食いたい。俺は肉食らしい。

じゃあドボル説はないな。

ずっとここにいってもダメだな。

外へ出よう。楽しみだなー。どこなんだろう？

なんか坂になってる。上行ってみるか。

崖かーい!!

迂回ルート探そう。

お。いけるいける。

さあ、どんな光景が見れるんだ？

おー。パァーって感じではないけどキレイ、空気と水が。

でも浅すぎて姿の確認はムリそう。

——ズン

!!!!

ビビったあー。あれは……………？

アプトノス!!

モンハンだあああああ!!!!!!

…ウマソウ……

—世界が白黒に染まった—

ふうー、喰った喰った。

……………は？アプトノスは？

うわ。

目の前にはモザイク物になったアプトノス、だった何か。

ちよつと待って？俺って何した？

アプトノス見てからの記憶がないけど。

まさかのアレ？本能の暴走？

ヤバイヤバイ。

危なすぎる。ターゲットがアプトノスだから良かった。

良くはないか。

他の強いモンスターだったら死んでた。

まだ肉残ってるな。

さすがに多いよ。何となくだけど自分の3倍くらいあるよ？

ある程度喰って理性が戻った感じかな？

でもまだ食える。

……いただきまーす!!

さっきまで意識飛んでたから、実質初アプトノス。

おお！やわらかい！それほど油はないけど、

充分うまい!!モン飯最高!

人間世界だと、生ハムをブロックで食べた感じ。多分。

ちなみに腹のお肉。

尻尾いって見よー。

はいはいはい。腹肉よか硬いね。でも不快な硬さじゃない。

こっちは角煮っぽいな。食感な。生だからね？

…そう言えば生だ。なんの抵抗もないな。

やっぱモンスターだねー、俺。

なんか嬉しい／／／

……ごちそうさまでした。

大分落ち着いたわ。

さて、回りを見た感じは、

洞窟の出口から見て左右に広がってて、

右は崖に囲まれてて、左には遠くに海。

右から左にかけて水が流れている

左の地面にはアプトノスの死体、さっき食べたやつ。

そして下り坂が。別のエリアへの道っばい。

右側は洞窟側に別の穴。向かいあって上り坂。

と、キノコ。

ハンターの方はわかったかもしれない。

ここは……………

孤島

だと思う。エリアは3、だったかな？

じゃあ、俺の生まれたところはエリア4か。

ああー。ビビったあー。

リオレウスってあんなヤバいの？

でかすぎるし、「俺、強いで!!」みたいなオーラあったよ。

ヘタレウスとか言ってスミマセンでした。

舐めていた。モンハンという世界を。

それを自覚させられた。

そして思った。

—強くなろう。

死なないために、全てのモンスターの味の知るために。

あれ？なんで食べることを考えた？

もしかしてさ。

アプトノスを前に暴走したのも、

いまの思考も、

偶然じゃないなら……………

俺は……………

“アイツ”
かもしれん。

食事シーンはこの物語の心臓なんで、なるべく細かく書きました。
この回でイビルくんがイビルジョーと気づく予定だったんですが、
思ったより長くなったために次回となりました！
レウスをもう少し強そうに書きたかったな。
祝1500文字w次回もよろしくです！

やっぱりジョーでした。

やっといビルくんが自分を理解します。

どうぞ！

俺が「アイツ」である可能性は高い。

洞窟に戻ってから、自分の体を調べて至った結果である。

① 理性で抑えられない食欲

② 底なしの胃袋

② に関しては、アプトノスを食って満足感を得ただけ、
まだ食べそうなんだよ。

それから、洞窟に戻って分かった(調べた)こと。

③ 大地の結晶に写った自分は、緑っぽい。

鏡じゃないから詳しくは分かんない。

④尻尾が重め

⑤スタミナ切れが早い

レウスから逃げた後、5分位はハアハア言ってた。あの短距離で。

今述べた俺の特徴からして、俺は：

イビルジョー

だろうな。確証はないけどね。

幸い孤島には水辺が沢山あるから、確認はすぐできそう。

この洞窟から通じてるエリアは3と6。

エリア6なら姿確認できそうな水辺あるよな。

またレウスみたいな奴いたらまずいなー。

でもまあ行ってみるか。

さてと、水辺水辺ーっと。

あったあった。

キレイだな本当。前世の世界の水が泥水に思える。

で、やっぱり俺はイビルジョーだった。

別にショックでも嬉しくもないけど、

まあ自分が何か分かってほっとしたよ。

でもおかげで課題が大量にできたよ。

イビルジョーは食欲の化身みたいなモンスターだから、

誰彼構わず喰おうとする。

つまり、俺が俺自身の食欲を抑えられない限り、

俺の命はそう長くない。

それは嫌だね。

自分の敵は自分とはよく言ったもんだよ。

………なんて考えてたら

ジャギイ3匹のターゲットになった。

1つ言わせて。

ジャギイでかいよ!!!!!!

脚力に任せて頭から突進。そのまますくいあげる。

ジャガイモ投げジャギイverなり。

視界をすぐ後ろへ。

走ってきたジャギイを尻尾で尻ぎ払う。

ちよくちよく言っただけ、俺の尻尾は筋肉質で重い。

それをイビル自慢の脚力で振り回すこの攻撃は、

現時点で威力第二位ってところだろう。

さあ、あと一匹。

尻尾攻撃の隙について噛みついて来るけど、もう一回転して牽制。

一歩引いて構えなおすけど、もう遅い。

一気に突っ込んで首に下から食らいつく。

モンスターの弱点は大体首か頭。

それはジャギイであっても変わらない。

ハンターからすればどこを殴っても一緒かもしれない。

けど、今の俺にははっきりと分かる。

一匹目と二匹目で感覚的に理解した。

腹は軟らかかったのに、背中に当てた尻尾からは

しっかりとした硬さが伝わって来た。

そんな弱点に俺の第一の凶器の牙が入れば、致命傷は避けられない。

めっちゃ強いモンスター以外。

地面に叩きつけて、小さい頭を食いちぎってフィニッシュ。

流石に頭骨は食えないや。ポイツ

そんな訳で、俺の初戦闘は圧勝で終わった。

ふあー！

疲れたー！

あのあとスタミナ切れした俺は10分くらいダウンした。

水辺の水に浸かってクールダウンしつつ水分補給。

この世界の水マジでうまい。完全な無味無臭なのに清清しい。

そして今はジャギイを実食中。

すこしパサつくけどしっかりとしたお肉の食感。

鳥竜種ってのはここからきてんのか？

——ごちそうさまでした——

さて、時間なんてわからないけど、すっかり夜だね。

澄んだ空気を流れる夜風が心地いい。

ザー……ザー………ザー

海の音か？ いいね。——なっ!?

「ピィィィィィィー………!!!!」

ロアルドロスだど!?

じゃあさっきの音は這いずりの音か!?

油断してたー！ 戦犯かよ！

モンハン界で油断って「死」直通だよー！

流石に勝てそうにない。

そしてロアルドロスさん。

洞窟の前にたたないでー!!

アイツの突進なんでもらったただただじゃすまないな。

それに水プレスはスタミナが……

スタミナ……そうだ　!

たしかアイツのポ○デリングは狂走エキスを作ってるはず。
なら少しいただこう。

全力ダツシュで突っ込もう。すれ違い様に食い千切ってやる。

相手がこんなチビに！ってなったらその間に洞窟へ。よし。

まずはダツシュ！ロアルド罗斯は余裕そうに待っている。

ありがとよ!!突っ込まれたら死んでたな。

ミニジャガイモを飛ばして注意を反らす。

ロアルド罗斯の目がそれを捉える。

今!!!

グシャア

お、俺の半分くらい取れた!

「ガアツツ!!」

ふん。元HR999なめんな。

洞窟へ走り去った。

ふうー。緊張したー。

レウスと違って正面から向かい合ったから怖さが5倍。

アイツしばらく居着きそうだなー。

じゃあエリアはここと、様子みてるだな。

今回のエリア6は収穫が多かった。

ジャギイ撃破、イビルジョー発覚、身体検査、

色々分かったし出来た。

でも一番はやっぱこの海綿質だろ。

俺は一応転生した人、否、竜だから、

食った相手のスキル獲得くらいは欲しいよ。

それが無くても狂走エクスを取り込めれば

イビルジョーの弱点ザコスタミナが解消できそう。

じゃあ、

いただきます。

マツツツツツツツ!!

例えるなら磯臭いスポンジ!

あのポ○デリングみたいな外観は何なの?

生きるためだ! 我慢しろ!

——あれは食べ物じゃない。能力up素材だ。

こうして俺は怒り喰らうイビルジョーしながら

海綿質を食べきった。

スキル獲得にしても吸収にしても、時間はかかりそうだな。

エリア3で口に残るマズさを流して洞窟に戻る。

そのとき見た大空は東京の夜景より明るく星が輝き

今日の疲れを忘れるくらい美しかった。

そんじゃ、おやすみ。

今回は長めに書いてみました！

1000～1500くらいがいいか、2000～がいいか、

感想欄に書いていただけると嬉しいです！

ではまた次回で！

やっぱ転生モンスターなんだねー

一週間ぶりの更新となっていました。

すみません。

バンドリのイベントで☆4引いて熱中しました。

さて、今回は転生モンスターであるイビル君の

転生モンスターらしさが爆発します！

では、どうぞ！

ん、朝かな？おはよー。

昨日の疲れはいまはすっかり取れた。

これが狂走エキスの効果なのか、ただ寝たことによる疲労回復なのかは、分かんないなー。

ゲーム内のモンスターの回復力すごいからなー。

結構いい感じだね。

…腹へったああ　！

イビルジョーの朝は食から始まる、的なの？

エリア6にはまだロアルドロスがいるだろうから、

またエリア3いきますかー。

あれ？アプトノスいないじゃん。

食べ残しすらないねー。

えー。ないわー。

どうしようかな。

…よし！ちよつと遠出してみよー。

どこがいいかな。

エリア3から直に行けた方がいいよな。

とすると、エリア2か7だね。

まあ選択肢は1つでしょ。

エリア2だよな？

エリア7なんて大型飛竜とかラギアクルスとかいるよね？

無理無理無理無理。

エリア2なら比較的安全かな。

この世界に安全なところなんてないけど。

まあエリア2で決定！

注意すべきはアオアシラくらいかな？

ラッキー！何もいない！大型が！

あれは……ムーファだっけ？もふもふですなー。

女性ハンターに大人気にムーファシリーズの元だよな。

見た目からして羊肉っぽい味かな？

“暴食”はあまり出てこない。

空腹になったのかな？

それともムーファは美味しくない？

まあまあ、実食としよー。

—いただきます—

なんだろ、この味。

美味しいっちゃ美味しい。ってくらい。

俺の新生活、いや、童生で下から二番目だな。

一番下？ スポンジだけど？

ちっちゃくて軽そうなのに、アプトノスより硬い。

焼いてスパイスつければ美味しくなりそう。無理だけど。

—ごちそうさまでした—

どうやら、俺の体は狂走エキスをうまく取り込んだらしい。

あのあとホロロホルルに出くわして、

ダッシュで逃走したんだけど、

全然疲れてない。

課題・スタミナ切れ 解消！

ここまで早い吸収は転生スキルっぽいかな。

そんな訳でエリア4。もう完全に巢だね。

元から大型モンスターがこれない所だから安全だし。

でもそれは、俺も成長したらここに籠れない

ってことにもなる。

成体のイビルジョーって20mくらいだったよな。

ちなみに一晩寝ただけで体が2周りくらい大きくなった。

成長スピードこわい。

まあまだジャギイとかランポスくらいの

大きさしかないけど。

でも成長したときのこと考えて、他に広いエリアを

獲得しておきたいね。

エリアで言えば、3、2、7だね。

エリア6はいろんな強者の寝床だからなし。

エリア1はハンターに見つかるよな。BC前だし。

エリア7はラギアクルスとかがいたりするけど、

ずっとじゃないし、237の内一番広いから、欲しいな。

あくまで縄張りだから、完全占領する気はない。

イビルジョーだって平和にいたいんだよ。

腹がへったときは別な。

まあそのためには敵を無くす必要がある。

俺はイビルジョーなんだから成体になれば

レウスとかラギアでも、そうそう襲って来ないはず。

それまで辛抱だ。

じゃあ強いイビルジョーになるために、1つ確認しよう。

俺が転生イビルなのか普通のイビルなのか確認。

これは大事なことだよ。

確認は簡単。

キノコとか鉱石を食べまくること！

この洞窟内には鉱石が豊富だから、まずは鉱石だな。

ここにあるのは、

鉄鉱石、大地の結晶、円盤石、マカライト鉱石、ベアライト石、

ライトクリスタル、黄金石、

いわゆる下位の鉱石だね。なぜかほぼすべての。

そこまではいいんだよ。

他に、ドラグライト鉱石、カブレライト鉱石、ユニオン鉱石、

ノヴァクリスタルがある。

上位の鉱石ってこと。

さらに、エルトライト鉱石、メランジエ鉱石、

アルティマ結晶、ピュアクリスタル。

G級鉱石!?嘘だろ。

(地底)火山とかにしかない紅蓮石系列はないけど、逆に言えば、それ以外はほぼ全てが揃ってる。

すごいよ。ここ。

本来孤島にないのもあるし。

これはラッキーだわ。遠慮なくいくぞ。

—いただきます—

硬っ!!当たり前前だけど。

下位鉍石なら何とか噛み砕けたけど、

上位、G級鉍石は無理。

上位は爪とかで削れるから、荒く砕いて飲み込もう。

上位鉍石完食。

爪を損失した。めっちゃ痛い。

ずーっとジンジンしてる。

そこまで苦勞して鉍石を食べる目的は、

体の硬質化。転生イビルならいけるかと思って。

さてと。どうしよう、G級鉱石。

火炎プレスでもあれば溶かせれるのにな……

いや、プレスならあるじゃん。

イビルジョー最大最強の武器。龍プレス。

高出力、高火力、絶大な破壊力、濃密な龍エネルギー。

これ以上ないほど最強の武器だ。

龍プレスって類いのなかではそんなだけだね。

果たして生後1日の俺にできるのか？

やってみるか。感覚で。

じゃあ狙いは目の前のエルトライト鉱石、およそ2m。

怒り状態に移行。どうやったって？

本気で咆哮しただけ。

今はそうしてるけど、意識の切り替えでできるようにしたい。

息を吸い込んで、肺を限界まで膨らませる。

喉元に意識を集中。

そして全てを放つ！

シュゴオオオオオ!!

あれ？出なかった。一応風圧で脆いところは割れた。

これって龍ブレスっていうより

弱めのソニックブラストだな。

どうしよう。

あー、あんましやりたくないけど、やってみるか。

もう一度咆哮。同時に暴食本能を少し開放。

っ！意識がもっていかれそう。

視界はとっくに白黒。

目の前のエルトライト鉱石の赤しか色はない。

でも、制御出来てる。完全に開放したらヤバかった。

多分これが本来の怒り状態なんだろう。

この状態になってから、自分の中に流れるエネルギー、

龍の力を感じ取れるようになった。

食べやすいねー。

そんな訳で俺は1日かけて俺は洞窟内の鉱石を
食べ尽くした。

眠いわ。また明日になれば硬質化してるかもな。

おやすみー。

2連おやすみエンドになったw

今回は鉱石を取り込みました。

次回はそろそろ人間視点を入れようかと思えます。

孤島に来る凶

大っつっつっつ変申し訳ございませんでしたあ!!

年末年始の色々で約3週間も空いてしまいました。

さて、

今回より物語が動き始めます。

では、どうぞ！

—初めて鉱石を食べてから、約1週間くらいがたって、
体にも変化が現れつつある。

なんて考えてらんないよ！

イビルジョーだからめっちゃ食べた。モンスターを。

あのあとしばらくは鉱石食べてたんだけど

栄養価が低すぎる！味も薄い！腹は膨れない！

はつきり言って鉱石に頼って生きてくのは無理だね。

幸いなことに最近大型モンスターに出くわさない。

おかげで食料調達は簡単。

今も洞窟にアプトノスを2匹しまってる。

実のところまだすっかりと体のチェックはしてない。

ちようど一週間たったしやるか！

じゃあ……まずは爪と牙。

この二つは鉱石を食べたことですごく硬質化した。

鋭さも増したと思う。

次は、鱗および体表。

鱗も硬くなった。色は特に変化無し。

筋力は成長に見あった強さ。

体の大きさはいまいちわかんないけど、13mくらいかな？
で、だ。

すごく驚いたことがあるんだよ。

尻尾のトゲが、結晶化してる。たぶんピュアクリスタル。

マジかよお！こりゃ転生スキル説証明じゃん！

何か尻尾とか顔のトゲが結晶化してる。

訳わかんねー。用途が謎。

——ざっとこんなかんじだね。

見た目的にはわりと普通のイビルジョーなんじゃない？

まあまだチビだけど。

こんなときにハンターなんて会いたくないね。

一度も会ったこと無いけど。

体チェックで得た最大の収穫は、

食べた物の特性を引き継ぐって言うスキルの判明。

これはチートかもなあ。

でも、食べることにさらに興味がわいたね。

食べた物から引き継ぐなら葉草とかもいけたりするのかな？
実食あるのみ！

ごめんどれがどれかわかんないW

色で識別するしかないか。

じゃあまずはこの緑色の草！たぶん葉草。

ワシャツ ー、獣竜種の口で草食べにくいな。

次は青っぽいの！あとそのピンク！

いっばいあるなあ！

拒絶も苦手意識もないのはアプトノスを食べたから？

そんな細かくスキル習得できるのならありがたいね。

やっぱり植物食モンスターがいるだけあって、

栄養価はありそうだね、俺には肉が一番だけど。

例えばだけど、リオレイアとかの毒を受けたり、

棘を食べたりしたときに、少しでも耐性あった方が良いじゃん？

だから、げどく草は大事だろうな。

薬草は普通に治癒力高まりそうだしね。

あっそうだ。キノコ食べてみたいな。

えーと。あった。

青いキノコ。アオキノコだね！（確信）

これでさらに治癒力アップだね。

他には：毒テングダケ、マヒダケ、クタビレダケ。

それからニトロダケにマンドラゴラ。

うーん。こいつらは食べたら害あるよね。

ここで食べたら死ぬかもな。

痺れてるところをパクリなんて冗談じゃない。

この中で必要なキノコは毒とマヒだな。

毒と麻痺の耐性はほしいからね。

でも食べたらどうなるかわからないから、

一端洞窟まで持って帰ってからゆっくり食べよ。

—古龍観測所より通達—

先日、孤島にて、“凶雷”を確認。

交戦したりオレウスとリオレイアが殺された。

また、遭遇したロアルドロスも痛手を負った。

“凶雷”の観測は1ヶ月ぶりとなるが、

以前より強力な電力を誇っている。

例によって、孤島での狩猟、採集、調査を禁じる。

又、周辺の村や集落での漁を禁じる。

追記。

同じく孤島にて、

イビルジョーの幼少個体を確認。

この個体は小型モンスターのみを喰らっており、まだそれほどの脅威ではないと判断した。

念の為観測対象としておく。

イビルジョーの自身を顧みない食性上、

“凶雷”によって死亡するかと思われる。

上記を以て、

ハンターズギルドに、モガの村及び周辺の集落へ

警戒勧告を要請する。

そして、孤島でのクエストを全て取り下げる。

—以上。

遅い割に文字数少なくてごめんなさい。

人間視点を書いて思ったのは、モンスターの死を

なんと表すかですね。死亡なのか殺されたのか。

はたまた殺傷なのか。

これでしょ！というのがあれば、コメントよろしくです。

イビルジョーなんだしいけるでしょ！

とか思っただけとマヒダケを

一気食いしたのは間違いだっただよ。

まさかキノコの毒がこれほどとは。

毒は動きが鈍って、目眩と吐血。

感覚的に力が入らなかつたな。

麻痺は筋肉を動かすと激痛。

痺れて動けないって言うよりかは、

いたすぎて動けないって感じかな。

でもこれでちょっとは耐性ついたはず…だよな？

付いてよ！頼むから！

あー腹減ったな。

アプトノスはーっと。いたいた。

いただきます。

俺は大分成長して、15m位になった。

そのぶん必要な食料も増えたけどね。

今ならあのロアルドロスともやり合えそうな気がする。

最近は小型モンスターも多くないし、

腹くくらないとな。

よし。勝負だロアルドロス。

どっちが捕食者で、生態系の上位者か、

はつきりさせようじゃないか。

そしてお前を食わせてもらおうよ。

—え？

なんで？

エリア6に覚悟決めてきたら、

ロアルドロスが寝てる。しかも瀕死。

全身火傷を負って、黒く焦げてる。

脇腹の辺りには打撲痕が。

俺を最初に苦しめた相手がこんなことに：

なんか呆気ないな。

はつきり言って、もうコイツの命は長くない。

見ただけでも分かる位にボロボロだった。

予想外なことに驚いたけど、情けなんてないよ。

この世界は弱肉強食。

弱きものに道はない。

お前の命は、俺がもらうよ。

たとえ相手がどんな奴でも、食べるなら感謝する。

じゃあな。

— いただきます —

ロアルドロスの頭を粉碎して、息の根を止めた。

全くひどいねー。

いつかボコってやろうと思ってたのに、

あんな最期とはねー。

さて、お味はー？

ん、皮に結構な張りがあるな。

皮自体は少し苦味があるけど、

塩気がなかなか良い。

プチッと弾けた皮の中には、

柔らかくて淡白な肉が。

肉は味が薄いんだけど、皮の塩気とマッチして、

良い味を出してる。

良いじゃん！ロアルドロス！

スポンジ以外はうまし！

次は尻尾。

見た目通り他より固いね。

でもコリコリしてて、鶏の軟骨みたい。

ーさて。

俺が一番興味ある部位。

せっかくロアルドロスを食べるんだから、

ここは外せないよねー。

水袋！ 水属性！ 水ブレス！

だいぶ飛躍してる気もするけど、ありえるでしょ。

味はあんまり期待してないなー。

食べてみますかぁー。

えーと、水袋、水袋ー。

あった、けど、グロいな。いや慣れたよ？ 抵抗ないよ？

でも完全に血の塊じゃん。

ちよっと引くよね。元人間なんで。一応。

では、実食。

プチっ。んおおお！？

う、うまぁーい！！

食感はゼリーみたいな感じで、

味がすごい！ モンハン界の水は美味しい。

その水を凝縮したような旨味がある。

アクエリアスを5倍美味しくした感じかな。

○○袋期待大だな！

—ごちそうさまでした—

ロアルドロス美味しかったなー。

あっそう言えば、これでエリア6制覇か？

最近大型モンスターを見かけないだけだから、

あくまで一時的な支配だけだね。

ま、寝床はエリア4だけ。

にしても、なんか引つ掛かるな。

孤島ってモンスターめっちゃいるはずじゃん？

なんでこんなに少ないんだ？

大型モンスターに会わないのは、今は

良いことだけど、食べれないのは困るな。

それに、ロアルドロスの傷。

炎の火傷っぽくなかった。

なんかおかしいなー。

空模様も怪しいしな。

まあ、明日はちよつと散策してみますか。

文中で情けなんてないよ。

とか言ってたくせに、自分がロアルにちよつと

情がわいてしまっていました。

大型モンスターは一部を除いておいしく書きたいなーと

思います。

ではまた次回で！

凶雷って迷惑だねホント

しばらく投稿出来ないかもしれません。

ご了承ください。

初のハンター視点です！

どうぞ！

龍歴院本部、第一会議室。

“凶雷”関係者会議。

「どうしたもんかのお……」

「やはり、ギルドマスターでも判断しかねますか。」

「ここまで強力な個体は前代未聞じゃからのお。」

「僕たちが観測した時から随分と強くなってますね。」

「隊長。これまでにない例ですので、対処は早い方が良いかと。」

「そうですね…」

「失礼します。」

「どうした、ギルドナイト長 a (アルファ)。」

「孤島のイビルジョーが、急激に成長、『凶雷』と戦闘する可能性がある」と、

古龍観測所より通達です。」

「……!!」

「イビルジョーならば、ヤツにダメージを与えられるやもしれぬの。」

「チャンスかもしれませんね。」

「じゃな。ではこうしよう。一週間後、様子を見て再会議じゃ。」

「了解です」

こうして、『凶雷』に対するハンターズギルドと龍歴院の方針が一時的とはいえ、決まった。

「……………」

場所は移って集会酒場。

「マスター。最近は多くのハンターが休暇か村へ帰っていますね。」

「あんなバケモノが出ちゃあ仕方ないよ。」

集会酒場ーG級と呼ばれるモンスターを相手取る歴戦のハンターが集い、

活気に満ちた集会所。しかし、最近はず「凶雷」の影響で村に帰ったり

休暇を取るハンターがいたり、少し静かな光景が見えていた。

まあそんな時でもクエストに出るハンターもいるわけでー

「え？まだ解除されてないの？孤島での狩猟禁止。」

「はい。まだ。」

「久しぶりじゃない、蘭。」

「お久しぶりです。マスター。」

「孤島の件、まだ長引きそうよ。」

「はあ……………」

「一つだけ、あなたの实力を見て言っておくわ。」

例のモンスターの調査依頼、来るかもしれないよ。」

「本当ですか？」

「ええ。」

「なら、それを軸にしようかな。マスター、ユクモ村まで頼めますか？」

「—————」

「あうあう！ ようきたのう！ 蘭ちゃんよお！

どうしたんだい？」

「ちよっと武器の点検をと思いまして。」

「あんたの武器はウチの特注品やからなあ。わかった！ 任しとき！」

「ありがとうございます。」

蘭。あたしの名前。一応G級ハンターやってる。

それから相棒とも呼べる太刀、

『飛龍刀\$空模様\$』

リオレウスの飛龍刀をベースに、蒼火竜、迅竜、さらに天彗龍の素材を使って、ユクモ村の鍛冶屋のおじいさんに作ってもらった。

名前の通り、刀身の根本は蒼火竜の蒼、先にいくにつれて火竜の朱が織りなす、

まるで夕焼けの様な太刀。刃は天彗龍の素材で出来てるから、斬れ味抜群。接合部分に迅竜の素材を使うことで、高い会心率を誇る。

龍の力で無属性になってる。でも、峰の方は火竜の力がこもってるから、振ると蒼と朱の火の粉を散らす。すごく綺麗。

あたしにとってあの太刀は体の一部みたいなものだよ。

「久しぶりだなあ、ユクモ村。せっかく来たんだし、行こうかな。」

「ふううう。やっぱいいなあ、温泉。」

ユクモ村といえは温泉。そんなことを言うハンターは多いらしい。

当たってる。本当気持ち良い。

こんなリラックスしたのいつぶりかな。

「あれ？蘭か？」

「?.....あっ！」

「やっぱり蘭だ。久しぶり。」

「時雨。久しぶり。」

「相変わらず素っ気ないなあ。」

「いつも通りだよ。」

「そうだな。」

「どうしたのー？ あっ！ 蘭ちゃん！ 久しぶりー！」

「彩音。久しぶり。二人に会うなんて思わなかったよ。」

「それはこっちのセリフだよー。まさか帰ってるなんて思わないよー。」

「お互い様、だね。」

時雨、彩音。幼馴染のハンター。最近はあたしが酒場に行ってて会ってなかったけど、

前は一緒に狩りしてた。

時雨はアマツ弓、彩音はジンオウガの笛を使ってる。

あたしも含めて全員G級ハンターで、超特殊許可クエストソロ制覇、古龍狩りの異名持ち。

自慢じゃないけど、いいハンターだよ。

「で、どうしたんだ？ 蘭。急に里帰りなんて。」

「ちよっと休憩。」

「“凶雷”だったっけ？ヤバいの？」

「知ってんじゃない。」

「最近δ(デルタ)さんから聞いたんだー。」

「それは置いといて、どうなんだ？酒場は。」

「悪くないよ。」

「またそれー。変わんないねー。」

「ふふっ、かもね。」

ウオオオオオオオオオオオオオオオオ

「あ、ジンオウガ」

「な、明日、3人で狩り行かないか？」

「さんせーい!!」

「ん、いいんじゃない。」

明日か…楽しみだな。

イビル「あれ？俺は？」

作「しゃーない、許してー」

完全人間視点！

むずかしい！キャラ設定しっかりしなければ……

次回もよろしくです！

俺、自然の恐ろしさを知る

お気に入り登録者さんが50人を越えました!!
これからもよろしくです!!

どうぞ!

ふあああ、ああおごっ!? ゴンツ

いたた……

そういえばこの洞窟も狭くなったなー。

今の俺の体長は大体17mくらいだと思う。

エリア4ってそもそも大型モンスターが来れないところなんだよなー

俺もここを出なきゃいけない日が近いんだね。

そうなるやっぱり他のエリアもテリトリーにしときたいよねー。

今のところはこのエリア4と隣の3、後は6(仮)かなー。

よし！今日は孤島一周してみよう！

ロアルドロスが傷だらけだった理由も知りたいし。

まずは行ったことあるエリア2だな。

—————

さてさてエリア2

とうちゃー！!?

ホロロホルル！

ピヤアアアアアアアアアア！！！！！！！

おお？やるか？前は逃げちゃったけど、今は違うからな？

グルオオオオオオオオオオオオオオオオオオ！！！！！！！！！！

おいこらっ！飛ぶなよ！

まあいいわ。じゃがいも投げで撃墜。

翼をもぎ取って、頭を噛み砕いて完封。

いやあ、強くなったな俺。実のところ怒り状態にならなかった。

まあ、イビルジョーなら当然か。

ーいただきますー

あーダメだね。ホロロホルル。身がない。羽ばっか。

胴体と脚は肉あるね。まずは脚いくか。

うん。サツパリ肉。油が全然ない。味も控えめだねー。スパイス欲しい!!

んじゃ次胴体はー…プチツ…?なんだ?なんか弾けた。

コイツ袋なんかあったっけ?…あれ、なんか体が重い。

なんでだ?…あ、睡眠か、これはヤバいんじゃn…

起きて1時間で二度寝した。ないわー。

ズゴオオオオオオン…

…ん。…ファっ!?

え?なに今の?え?

はあ、焦ったあー。近くではないみたい。

方向は、エリア9、10の方だね。

なにがあるんだろ。行ってみるか。

危険なのは分かるけど、確認せずにビビってんのは嫌だからね。

—————

エリア5に入ると、血と生き物が焼かれる臭いがした。

反射的に戦闘態勢に入る。さすがイビルジョー。

—————

—————

さて、エリア10なんだけど、いる。

黒いナニカ。

そいつの足元にはリオレウスらしき亡骸。どうやら黒炎王みたいだ。

まずいな。黒炎王を殺れるヤツなんて勝てる気がしない。

もう一度よく見ると、おそらくラギアクルス希少種かな？

少し違うところもあるけど、

黒光りする戦艦の様な甲殻、朱く染まった眼、背中から突き出た蒼く輝く背電殻。

全身を迸る蒼電。間違いない。

はつきり言って勝てる相手じゃない。でも逃げてまた挑めばいい。何とかして隙を作らないと。普通に死ぬ。

口内に龍ブレスをチャージ。いつでも撃てる様にしとく。

バチバチ：蓄電か。ーおっと。下からの放電。

すぐサイドステップで回避。その先にまた放電。くそっ。

5度目の放電を避けた瞬間、ラギアクルスはT字拡散ブレス。

龍ブレスなら無効化出来るはず！

そう思って出力最大の龍ブレスを撃ったけど、あまりにも強い雷撃に弾かれ、

T字拡散ブレスは俺の真下に着弾。俺は空中に投げ出された。

今までのどんな痛みをも越える激痛が体を襲う。

ーなっ!?

着地寸前の俺に向けて高速雷電タツクル。

壁に当たってダウンした俺の尻尾を根こそぎ噛みちぎる。

もうダメだ。体が動かない。激痛で今にも意識を手放しそうになる。

ラギアクルスの牙が俺の喉にゆっくり迫ってくる。

くそ。せつかく転生したのにこんな終わり方かよ。

今すぐにも逃げるかコイツに噛みつきたいけど、

動けば瞬殺される。詰みだな。

そしてラギアクルスの牙が俺をー……………

パシユパシユシユシユシユ……………

グオツ!?

なんだ？突然降ってきた赫い光にラギアクルスが飛び退く。

直後、彗星が孤島に墮ちた。

…バ、バルファルク!?!なんで孤島にこいつが？

突如飛来したバルファルクに対して、ラギアクルスは怒り状態に移行。

蒼い輝きがさらに強まる。さっきの3倍はあろうかという威力のT字拡散ブレスを放つ。

バルファルクは手の様になった翼でなぎ払った。

流れる様に龍光弾を乱射。ラギアクルスは全身に雷を纏っての雷電タックル。

しかしバルファルクは翼の形状を槍型に変え、ラギアクルスを貫こうとする。

ギリギリでラギアクルスは槍を避けるけど、右半身に大きな傷を負った。

さらにバルファルクは回転しての切り払い。背電殻を砕かれたラギアクルスは衝撃を受け流しつつ海へ潜水。海底へ潜っていった。

残ったのは俺とバルファルク。

死んだと思ったけど、バルファルクは俺を無視して飛び去っていった。

……ヤバすぎるだろ、あの二体。

エリア4に戻って休もう。

はあ、くうっ、動け俺の体！

—————

—————

やっとエリア5まで来た所で、テツカブラに遭遇。

その姿を見た瞬間、獲物を欲する俺の体の主導権は“暴食”に移り、

俺は意識を手放した。

今回はイビルくんボコボコでした。

次回はまったりとした回になりそうです。

今回激しかったので。

ではまた次回で！

竜と龍の差

投稿ペース乱れてすいません、、

最近寝不足で：

そんなことはさて置き、

今回はあの「神」が降臨します！

どうぞ！！

俺がラギアクルス希少種(?)に襲われてから約一週間。

やっと動き回れるくらいに回復した。

イビルジョーの回復力を持ってしてここまでかかるとは、

尋常じゃないなーアイツー。

尻尾を千切られたのが一番きつかったなー。

満足にバランスも取れなかった。

今は80%くらい治ったかな。

ラギアクルス(?)のブレスの破壊力は凄まじくて、

俺の胸から右肩にかけて、傷痕が残っちゃった。

イビルジョーの体の傷ってこうやって出来るのかな。キッツ。

流れ込んだ強力な電撃を封じるために、龍属性エネルギーは増大した。

そして、、、腹減ったああああああああ!!!!!!!!!!

もう一週間なんも食べてないんだよー!

エリア10には黒炎王の亡骸があるだろうけどさ、

いるじゃん。アイツ。多分。

だから当分あっち方面に行けない。

なんかないかなあー。

お？ おおおおお!!

あ、あれって、灼けた甲殻!?

あのバルファルクのかな？

ーはっ！

もしかして…これ食ったら、古龍化いけるんじゃない？

ーいただきますー

おおー！ 美味しい！

パリパリしてポテチっぽいかな、なんとなく。

味はピリツと辛いね、龍属性ってこんな感じか。

g…ググ…？

んんっ!?

体が、完全に回復した！

尻尾の鉱石も赫星石になってる！

それだけじゃない。

感じる。より強く。体に流れる龍の血を!!

あれ？なんだろう、こんな波動は感じたことないな。

清々しくも雄々しい。まるで海の様な…

あ。水ブレスか。忘れてた。

でもなー。龍と違って使い方というかやり方が分かんないや。

『やっほー!!』

どわあああ!!?!?!?

『だからあ、そんなに驚かないでっ。』

あ、祖龍様ではないですかあー。

『久しぶりだねー。転生前以来かな?』

相変わらず呑気な方だなー。

『今回は君に大事な話をしに来たんだー。

さっき灼けた甲殻食べたでしょー?』

え。あ、はい。

『それによって、君は半古龍化したんだよ。

ちようどいいや。君には竜と龍の違いを知ってもらおう!』

お、おう。

『まず竜についてね。』

君は竜大戦って聞いたことある？』

あー、あれですか。めっちゃ昔に人間とモンスターが滅ぼしあってたって言う。

『そーそー。あの戦争は私とバルカン、ボレアス、バトリオン、ミラオスが主軸の竜と』

シュレイドを拠点とした人間の戦争なんだよー。

で、はじめは私達5体とシュレイドの戦争だったんだけど、

イコール・ドラゴンウェポンって言うエグい兵器を人間が開発して、

私達も龍の力を使わざる得なくなっちゃって、それに影響された昔のモンスターが進化したのが、獣竜種、海竜種、飛竜種。

ふつーの動物は牙獣種とかになった。』

あんたらのせいだよ。

『仕方なかったのー。』

まあいいですけどー。

『つまり君は元は普通の大型爬虫類。』

なるほど。

『次に龍。彼らは、自然の結晶みたいなものだよ。』

わっど？

『戦争は拡大して、次第にモンスターはイコール・ドラゴンウェポンに使われて、こっちの戦力がなくなって来ちゃったの。』

そこで、私達は龍の力にそれぞれの属性を乗せて、強力なモンスターを創り出した。それが古龍種。私が雷、ボレアス、バルカンが炎、水と氷はバトリオンがね。

君であるイビルジョーも古龍種候補だったんだけどー、他の属性を受け付けなかった。

でも龍は受け入れたから、竜の最強になった。』
化け物じゃんか。そりゃ災害って言われるわ。

まあ、俺らとあんたらじゃ次元が違う訳かー。

『もしも君が直に古龍の血を飲んだ場合、完全に古龍化すると思う。』

そしたらまた来るねー。凄い差が出るから覚悟しなよー。』
わかった。

『ばいばい!!』スッ

うわー。ふつーに瞬間移動したー。

なんかさつきより龍の血を繊細に感じる。

あと水も。心臓あたりから広がってる。

水ブレス、やってみますかあー。

話は少し重いかもしれませんが、ほのぼのの回でしたー。

ストックはあるけど時間がないですう。

少し用語があるので、調べて頂ければ幸いです。

ではまた次回で！

俺の進化が半端ない

物語はもう少しノロノロ進みそうです。

そろそろイビル君がイビルジョーからイビルジョーの様なものに…

どうぞ！

さてと、まずは準備運動兼ブレスの打ち方の復習で、

龍ブレスやってみよう。

スウウウウウウウ

ガアアアアア!!ピキピキ……

よしよし。怒り状態にならずとも龍ブレスを撃てるね。

古龍様様だわーほんと。

じゃあ本題の水ブレス！

まずはイメージっと。

頭にロアルドロスのブレスを思い浮かべる。

それに自分の心臓から感じる海の波動っぽいのを重ねて、喉元に集中。

大きさに仰け反って溜めていく。

よし、なんとなく来た感じがしてきたあー！

セーのっ!! ッダンッッ!!

おお：すげー。本当に出来た。水属性、習得!!

しっかしマジでイメージの通りだな。

ロアルドロスを模した砲弾型のブレス。

威力、射程どちらもそこそこ。着弾点で一気に形が崩れる拡散型ブレスだね。

今は山形弾道だけど、発射速度を上げたら直線弾道もいけそう。もちろん曲射も。

でもこれは主力にはならないかなー。

なんせ遅いし、威力もそんな高くないしね。

アグナコトルみたいなまんま「火」な奴にしか使えないな。

ブレスはあくまで護身か強モンスター相手用だけど、

流石にもうちよつと威力が欲しいなー。

水プレスなー。……んー、あ。

タマミツネ式ならどうだ!?

あのプレスなら威力、射程、速度の3つ、

さらには一点への集中攻撃が可能になるね。

やって見よう!

喉元に水を溜めるまでは同じ。そこからさらに圧縮。狙いをしっかり定めて……

シューーーーーーッ!!!

TUEEEEEEEE!!!!!!

すげえ!!

なんつー威力!?

前にあった岩が切れた、

ええええええええええええええええ!?

マジか、

これは予想以上の成果だよ。

さっきの砲弾型じゃなくてレーザー型のブレス。

全てにおいて2倍並みの力がある…

これなら実戦でも使えそうだなー。って、ん？

水ブレスで出来たのなら、龍ブレスで出来ないはずないよな？

よし。

体に流れるエネルギーを龍に戻してチャージ。

あえて少なく溜める。こんくらいかな？

シュンツ：passen!!

おー、行けたねー。イメージはバルファルクの龍光弾。

まあそんな威力はないし、光る程でもないから、龍陰弾とでもしとこ。

威力がないと言ったけど、砲弾型水ブレスくらいの威力はあるっぽい。

My 属性流石です。

じゃあ次は龍レーザー！

出来たら火力No.1の必殺技になりうるね。

しっかり踏ん張って、体を安定させる。

龍のエネルギーを最大まで溜める。

その影響か龍属性に反応してか尻尾の赫星石が赫く輝く。

そして正面の一点を狙って撃つ!!

キイイイイイイイイイイイイイイイ!!!!

龍レーザーが当たった崖に大きな穴が開いて、その周りは溶けた。

撃った俺自身も数メートル反動で下がっていた。

やべえ半端ねえ。いくら何でも強すぎ!

孤島に穴空けちゃった。

ま、いいや。

これは間違いない最強だなー。

この後俺は龍エネルギーの回復を待ってから通常ブレスの強化をした。

内容は範囲広域とか。

第2属性、ゲット!!

これによって、ちょっとやりたいことが出来たわー。

亀亀更新申し訳ない。

シーズンなんです。

水属性獲得いかがでしたでしょうか。

次回久しぶりに人間視点のつもりです！

感想、ご意見よろしく願います！

ではまた次回で！！

新たなる脅威

長らくお待たせして申し訳ございませんでした。

これからは毎週投稿に戻れそうです！

2～3話ほど時間があちこちちましますのでご注意ください。

どうぞ！

「イビルジョー」と「凶雷」が孤島で接触して2日

ー古龍観測所より通達。

孤島にて、「凶雷」と例のイビルジョーの接触を確認。

イビルジョーはやはり通常個体より特殊な動きを見せたが、他に差異は無し。

“凶雷”は前回よりも電撃が高威力となり、イビルジョーの龍ブレスを貫通、直撃させた。

双方の闘いは“凶雷”が圧勝し、イビルジョーは絶命したかと思われたが、
“孤島に天彗龍が飛来”

天彗龍との戦闘により、“凶雷”は重傷を負い、孤島より逃走。

また、天彗龍も孤島から飛び立ち、現在地不明。

イビルジョーは命からがら逃走し、逃走中に遭遇した鬼蛙を捕食。

この際には、通常個体に似た行動が多かった。

上記により、G級ハンター(HR50)以上のハンターに孤島の調査を依頼する。
調査後、問題無しと判断した場合、上位以上のハンターに孤島での採取を許可する。

なお、狩猟は1カ月間禁止とし、下位のハンターの立ち入りも禁止とする。

これにて、古龍観測所の孤島での集中観測を終了し、

龍識船にイビルジョーの観察を要請する。

ー以上。

状況は整った。ジンオウガ、覚悟しなよ!!

「狩技「桜花演舞」

自作の狩技。桜花演舞。

桜花気刃斬を改良強化したもので、

一閃ごとに太刀の輝きが増し、威力が高まっていく。

定型通り2連大回転斬りで切り抜けた後、

勢いを流して納刀せずに振り返り、モンスターを踏み台に跳び上がり、

落下しながらの3回転斬り。

着地点で円を描く様に切り上げ、頭上から左か右に振り向きつつ斜め切り、

さらに背後に一閃。これで終わり? まだまだ!

モンスターの頭、左腕(翼)、左後ろ脚、尻尾左反面、右反面、

右後ろ脚、右腕(翼)、もう一度頭。

モンスターを軸に回りながら、

それぞれの位置に切り下ろしか切り上げ、そして返し斬り。

頭に刀身を突き刺し、それを使って真上に跳ぶ。

そこからモンスター頭の全てを乗せて斬り下ろし。

同時に今まで切ってきた箇所から鮮血が噴き出し、

頭に時間差で最後の一閃が奔る。

こうしてあたし達の狩猟は終わった。

「久しぶりの蘭ちゃんとの狩猟！楽しかったー！」

「ああ！ほんとだよ！」

「二人とも大げさすぎ。」

「そんなことないよ！久しぶりに見たなー！桜花演舞！」

「あれだけの連撃をたった5秒なんて流石だな。」

「あそこまで完璧なのは二人のサポートあってだから……」

「照れんなってー。」

「て、照れてないし！」

「あはは！そーいえば蘭ちゃんいつもの太刀じゃないよね。

どうしたの？」

「そうそう、それアタシも気になってたんだ。」

「ああ、それなら点検中。せっかくユクモ村に来たからと思つて。」

あたしが飛竜刀ウツクノ空模様ウツクノを使つてないのに気づくなんて、なんか嬉しい。今回は代わりに深雪一文字フカユキ幻日ウツクノを使つた。

桜花演舞に耐えられるか心配だったけど、一応耐えてくれた。

でもこれは間違いなく修理だね。

あとで武器屋に頼も。

「はああ。やっぱり狩後は温泉だよね。」

「うん。同感。」

「蘭さん。」

「受付嬢さん。どうしたんですか？」

「村長さんが、後で集会所に来てつて伝えてくれつて」

「分かりました。ありがとうございます。」

武器屋で太刀を返してもらつて、集会所に来たけど、

「ヤッホー蘭ちゃん久しぶりー！」

「δさんお久しぶりです。」

「うんうん、お久ー！」

「どうしたんですか？」

「えーとね、孤島での調査依頼が酒場に來たらしくて、蘭ちゃんに出向いて貰おうかなーと。」

「やっどですか、でもなんであたし達に？」

「なんでも変わったイビルジョーが居るらしくてさー。」
なるほど。それであたし達に依頼ってことね。

「行きたいのは山々なんですけど、」

「あ、そうだ蘭。アタシ達二人も酒場行けるぞ。」

「え？でも前は行けないって。」

「実は前はアマツマガツチが来てて、私と時雨ちゃん
対応してって依頼されてて。蘭ちゃんは酒場からの依頼があったから、」

「それなら言っよ！そしたらもっと早く、」

「悪かったな、蘭。でもこれからはずっと一緒だ。」

「ゝ、わかった。でも今度は許さないから。」

「はいはい。おー怖。」

「ちよつと時雨ちゃん！」

「でも、ありがと。二人とも。」

「うん！」「おう！」

「話はまとまったかなー？」

「はい。えーつと、次はいつ酒場に乗れます？」

「来週。」

「分かりました。じゃあ。」

「バイバイ！」

ついにあたし達3人で酒場に行ける、！

来週、楽しみだね。

そういえばひさんギルドナイトユクモ支部長（ギルド直属No.5）なのに、

あんなやわやわでいいのかな、

溜めてた分長くなりました。

ちょっと補足。

時雨^{II}喋り方は男っぽいですが、女性です。

δ^{II}デルタと読みます。

次回もお楽しみに！

キャラ整理

読者様 お久しぶりでございます。

4月より始まった新生活にドタバタしていて、投稿が出来ずにいました。

申し訳ございませんでした。

今回は、筆者自身と読者の皆様のため(?)に現在のキャラクターを整理したいと思います。

イビルジョー…物語の主人公。

いわゆる現実世界から、

モンハン界へと転生。

転生の過程で、モンハン界の神である

祖龍ミラルーツと知り合う。

前世ではモンハンガチ勢だったため、こちらの世界には詳しい。

楽観的な性格だが、戦闘モードでは冷酷。

孤島にて誕生し、現在成長中。

祖龍より与えられた転生スキルを持ち、内容は捕食したものの特性を受け継ぐ。

心に本能である「暴食」を宿しており

怒りのリミットオーバー、飢餓状態など

何らかの関係で自我を保てないと、

その状況が、改善するまで

身体を支配される。尚、意識はある。

様々なモンスターを食べ、

味を知ろうとしている。

食事以外での殺生を好まず、

平和に行きたいと願っている。

凶雷

.. ラギアクルス希少種。

常識を遥かに超える電力と戦闘力を誇り、

ギルドよりこの名が付けられた。

現在この個体が出現した地域では

避難勧告及び狩猟が禁止される。

ギルドの最優先課題である。

祖龍

.. 主人公をイビルジョーにした張本人。

モンハン界の神であるが、

あまり世界に干渉することはない。

全ての古龍の親である。

基本的にはシュレイド城の近くの

異空間にいる。

人々やモンスターの前に現れる際は、
擬人化している。

蘭 …… ユクモ村出身のG級ハンター。

現役ハンターの中で

最強クラスの实力者で、

古龍を1人で討伐するなどの功績をあげ、

ギルドからの信頼も厚い。

使用武器は太刀で、特注品の

飛龍刀《空模様》を使う。

笛使いの彩音、弓使いの時雨と

よく狩りをしている。

集会酒場によく滞在している。

ギルドナイト…ギルド直属のハンター取り締まり人。

それぞれの村に支部があり、

支部長にはコードネームがある。

現在ギルドは龍歴院が主であり、

その影響で、ベルナ村、ユクモ村、

ポツケ村、ココット村支部は大きい。

ベルナ村に a 、ユクモ村に δ 、

ポツケ村に β 、ココット村に γ と

呼ばれるギルドナイトがいる。

こんな感じですねー。

機種変したので字体的なものが変わるかもです。

これからもよろしくです。

開拓そして新エリア獲得へ

現実的に生活が慌ただしく、投稿スペースが乱れがちです。
ご了承ください。

久しぶりの執筆なので、何がズレていたりなどありましたら
コメントにて報告お願いします。

どうぞ！

水ブレスを習得した次の日、
俺は新しいブレスの使い道を確立するために
拠点（エリア4）にいた。

その目的は：

住処の開拓！

前々から狭くなったなーって、思ってたんだけど
どうしようもなかったんだよねー。

で、前世の世界とかで水で岩とか切ってるの
を見たこと思い出して、

水ブレスで行けるんじゃない？って思って、
洞窟内の出っ張った所に試しに打ってみた。

うん。カンペキですな。

1 回目は出力間違えて、

他のところに傷入っちゃったけど、

そこからあとは順調順調。

まずは天井のトゲトゲ岩を切り落として、
平らにした。

でも低いことに変わりなかったから、

龍ブレスで溶かした後に緩めの水ブレスで固めた。

おかげで1・5倍くらい高くなったね。

さっすが水ブレスミツネ式。

このミツネ式高出力水ブレスほんと便利。

まあタマミツネにはこの使い方は

思いつかないだろうけどね。

その後中央にある壁

これのせいでハンターさんはグルッと洞窟内を

回んなきゃ行けなかったアレ。

全部溶かしましたー。

最初は水ブレスでどうにかしようって思ってたよ？

でもデカすぎて溶かす以外なかった。

ドロドロになった岩は俺が生まれた穴に

流し込んだいた。

さらば俺の誕生場所。お世話になりましたあー。

ふうー疲れたー。

スタミナは半永久的にあるから良いんだけど、
ふつーに体内エネルギーは消費するからね。

ご飯食べたいなー。

あっそう言えば最近

孤島に飛竜種が増えて来てるんだよねー。

リオ夫婦はもちろん、その他いろんなモンスターが
増えてきた。

海を渡ったのかガノトスも1回見たね。

あとはテツカブラとかの潜れる奴らも

帰ってきてるねー。

どこに隠れてたのかケルビとかも増えてきて、
生態系が豊かさを取り戻してる気がする。

この状況を見る限り、

あの化け物ラギアクルス希少種はいなくなったっぽい。

…良かったぁー!!

ホント死ぬかと思ったから!!

やっぱ平和が1番よ。

今のうちにテリトリー増やしときたいなー。

うーん、エリア3・4・6は実質テリトリーだから、

次は2か7なんだけど、

2だとハンターに会う可能性があるんだよねー。

ラギアクルス希少種がいなくなって、

比較的安全になったから、狩猟をしに来るハンター

が来てもおかしくないからね。

強いハンターはもちろん、弱いハンターでも、

ギルドに報告されたらたまったもんじゃないよ。

そしたらあつという間に狩猟対象じゃん。

それだけは避けたい。

のでー、7行きますかー。

エリア7は広くて水もあるから、

快適度高いねー。日陰だし。

だから他の大型モンスターと遭遇するかもしれない。

そんな時は出来れば戦闘したくないなー。

食べない命はなるべく殺したくないし。

だから前にも思ったけど、

一応のテリトリーってことにしとこうと思う。

お腹減ってる時は別ね。

ガアアアアアア!!

お？リオレウスか。

リオレウス、飛竜の王、

産まれたばかりの俺に恐怖を教えてください

ある意味先生。

あれは黒炎王だったし、もう死んじやったけどね。

今はどう思うかって言ったら、

美味そうじゃない？

イビルジョーだからなのかもだけど、

モンスターを見ると美味しいかなって

考えるようになったね。

リオレウスって見た目的にも

翼とか脚の形とか質感と云うか、

なんか美味そうなんだよねー。

よっしゃ、自分の戦闘力チェックと、

進化したブレスの対モンスター威力チェック

のために、一狩り行きますかー。

あくまでも本命は食事だけだねー。

エリア5

お、いたいた。

自分がでかくなつたからだろうけど、前ほどやばくないね。

さあ勝負だ飛竜の王よ。

戦闘モードに入り、暴食を少し解放する。

レウスの目が俺を捉えた。

スマホに変えてから執筆スピードが上がってるので、

これを上手く利用して投稿ペースを

週一にして行きたいと思います。

どうでしたか？

何かズレていたりすればコメントお願いします。

これからも、よろしくお願いします。

ではまた次回で！

王の味

毎回遅くてすいません。

だいぶ間隔を空けてしまったので
自分も読み直しました。

どうぞ！

空の王者リオレウス。

前よりはヤバくないとはいえ、その風格は圧巻。

完全な成体でないが、イビルジョーである俺に対して
まったく恐れていない。

双眸から溢れる威圧感は他のモンスターの比じゃない。

ま、お前には悪いけど、食されてもらうよ。

久しぶりの本気の戦闘。

「暴食」を半分解放して戦闘態勢に。

ガアアアアアアアアアア！！！！

グルアアアアアアアアア！！！！

お互いに咆哮を上げると、

先にレウスが動く。

いきなり主力技の火球ブレス。本気だな。

いや、命の削りあいには妥協はないか。

すぐさま体内のエネルギーを水に変え、砲弾型ブレス。

ブレス同士が激突し、水蒸気が立ち込める。

あのブレスそんな温度高いんだ。侮っちゃだめだな。

レウスは眼がいいから、この煙の中でも

視界は問題ないんだろう。

俺に向かって空中突進。

俺はギリギリでサイドステップで避ける。

もう一度突っ込んでくるつもりなのか、

空中で振り返る。

せめて回り込みながらとかにしなよ。

隙まみれだぜ。

俺はレウスの右翼に飛躍しながら

デイノバルドを模した尻尾ムーンサルト。

撃墜されたレウスに向かってタックルして

吹き飛ばす。

しかしさすがは空の王者。

吹き飛んだ勢いを利用して、

うまいこと空中で姿勢を戻す。

そのまま急降下キック。

それをバックステップで躲して

噛みつこうとすると、尻尾回転。

なるほどフェイントか。やるな。だが甘い。

開けたアギトを尻尾に向け、しっかり噛みつく。

そのまま大剣の強溜めのごとく

斜め回転で地面に叩き付ける。

さすがにスタンしたレウスに竜陰弾で追撃。

でもこれは念のため。

あくまで反撃するチャンスをなくしただけ。

ここからが本番だ。

イビルジョーお得意の三連噛みつき、

ではなく三回分を一回に溜め込むアレンジ版。

この技は溜めに時間がかかるから、

こういうチャンスがないとできない大技。

さよなら、リオレウス。

頭に牙を喰い込ませ、振り切る。

リオレウスは完全に息絶えた。

ふうー。

やった、！

リオレウスに勝った！

またボコボコにされたらとか思ってたけど、

意外にも圧勝だったんじゃない？

なんだろう、本物の世界で、

設定とかないはずなのに、

あいつ定型攻撃しかなかったな。

これじゃリアルに欠けるなあ。まいつか。

では本題。て思うのはイビルジョーだからか。

いざ！実食！！

いただきますーす

まずはお腹から。

おお肉厚だあー。

アプトノスよりも強い歯ごたえ。

特に加熱もしてないのに、温かい。

激しい戦闘の後だからなのか、

それとも火属性だからなのかはわからない。

火属性だったらなんかいいなー。

コイツが生きた証みたいなのを感じられて、

よりおいしい。

油もすごく適量。

噛むたびに溢れてくるけど、

サッパリとした味でしつこくない。

それほど大きい個体ではなかったのに

十分なボリュームがある。

次は胸あたり。

一口目、

すごく柔らかい。これは意外だなー。

あの巨大な翼を動かす筋肉だから、

めっちゃ硬いとおもってた。

お腹と比べて油は少なめかな。

二口目、

あれ？すごく硬い。同じ部位なのに。

なんで？って思いながら咀嚼していると、

急にやわらかくなった。

おかげで歯ガチンツてなった。

あー。わかったぞコレ。

筋繊維の向きだ。

繊維に沿って噛めばやわらかく、

逆らえば硬くなる。

楽しい肉だなー。

よーっし次は尻尾。

ここは肉は少ないんだけど、

細かい骨が多くて、食感第一って感じ。

ハンターさんからすれば硬くても

俺にとっては軟骨。

飛び出てる骨は硬質化してて

食べるもんじゃないけど、

取り除けばガブツといけちゃう。

最後はせっかくレウスを食べるんだから

忘れちゃいけないー

火炎袋!!

これすごい楽しみだった。

火属性取得ってのもあるけど、

なにより【袋】系統は美味しいはず！

前回のロアルドロスの水袋はほんと美味かった。

だから期待大。

では。

あ、熱っ!!そして辛!!

まんま火じゃん！

辛いかどうかは置いといて。

でもうまああああ!!

黄金比担担麺の5倍うまい。

これで確信した。

袋はうまい。絶対。

いやあー、レウスほんとう良かった。

ダントツNo.1だわ。

そしてまだ楽しみは終わらない。

翼と甲殻。

このまま食べようもんなら地獄だけど、
じきに火属性を獲得するはずだから、
そしたら、ね？

焼いてみたいじゃん？

食事と戦闘が一回に来るとながいです。

空の王者リオレウス。

かっこいいですよねー。

なのでおいしく書かせて頂きました。

料理に火は大切ですよね。

ではまた次回で！

我身の成長

イビル君の成長確認！

どうぞ！

ふうー。ひとまずごちそうさまでしたー。

さすがに満足感あるわー。

まあまだ食べれるけど、甲殻もあるし、

腹8分目(大嘘)ってことで。

しっかしレウス相手にここまで圧勝とは

俺も成長したもんだなー。

レウスの炎使えるにはまだ時間いるだろうし、
久しぶりに身体チェックやりますかー。

さて、エリアは移って4。

完全に単化したここには、

一つだけ成長させた巨大な鉄鉱石がある。

龍ブレスで表面を溶かして、

水ブレスで磨いてある。

そう、鏡ー。

まあ前世みたく完璧じゃないけど、

一応機能はする。

体の変化はここで見てみよー。

じゃあまずー、体の大きさはー、

うん、デカイ、俺。

明らかにデカイ。30mくらいかな？

最大金冠よりデカイ。

なんかしたかな、俺。

全身の棘は半古龍化した時に、

赫星石になってそのまま。

高出力龍ビームとか、

大量の龍エネルギーをつかうと、

赤く輝く。

共鳴的なものなのか、それとも

龍エネルギーの補助だったりなのかは、

今のところ分かんないねー。

そんな赫星石にもわかったことが1つ。

なんと自分の持つ属性エネルギーを

発生させることができる！

といっても今は水と龍だけだけどね。

なにがすごいかって、例えば、

このエネルギーを全身に纏わせれば、多少の属性攻撃なら無効化できる！

少しくらい威力が高くて、

その属性に相性のいい属性で

対処できる。

これは強いと思う。

ただ水属性でやると、

ビシヨビシヨになるんだよねー。

なんとかしたいなー。これは。

それから身体機能のほうは、

筋力が大幅に増えたり、

嗅覚が鋭くなった。

レウスとの戦闘の時、

煙の中でも俺が戦えたのは、

この嗅覚のおかげ。

相手の移動くらいならわかる。

さらに範囲も拡大。

周囲5kmくらいなら

嗅ぎ取ることが出来る。

ちなみにあの

ラギアクルス希少種は

ここにいないことも、

これで分かった。

半古龍化によって

捕食した物への適応力が

めっちゃよくなった。

それから、龍属性、水属性ともに

良質なエネルギーが大量に

生成できるようになった。

そして忘れちゃいけない

【本能】

こいつを「暴食」と名付けた。

こいつは俺の中に眠る

イビルジョー——本来の思考

みたいなもの。

怒り状態のときはこいつを半分くらい

解放する事で、

自分のスペックを底上げできる。

そのときは視界が白黒に染まり、

対象の色のみが鮮やかに写る。

何らかの理由で制御できなくなると、

その原因を完全に消し去るまで、

体を乗っ取られる。

こうなったらほんとにヤバイ。

なにするかかわかんないから。

そしてだいたい腹の減りすぎが

原因なんだよなあ、

あと某神様が教えてくれたのは、

俺は喰らった物の特性を引き継ぎ、

属性や毒などは耐性がつく。

そして使える。

威力は食した物次第で、

どんどん上書きされていく。

こんなところかなー。

食べれば食べるほど強くなれる、

最高だねー。

さすがに完全古龍ではないので
強すぎない方がいいかなーと思ってたんですけど。
わりと落ち着きました。たぶん。

平和主義イビルジョーの食事情

著者 王道を行くヘタレウス

発行日 2021年3月24日

ハーメルン-SS・小説投稿サイト-
<https://syosetu.org/novel/177328/>

本書の内容を無許可で転載・複写・複製することは、禁じられております。
